大学概要 2023

十文字学園女子大学

100th Anniversary Jumonji

2022年、十文字学園は
創立100周年を迎えました。

目　次

01 …… 建学の精神、学園歌、沿革、歴代理事長、歴代学長

03 …… 組織図

04 …… 大学・大学院・留学生別科

05 …… 教育の特色、修学支援制度

07 …… 就職支援

08 …… 学生データ

09 …… 研究、研究所、地域連携

11 …… 財務状況

12 …… 教職員データ、役職者一覧、施設・設備

13 …… 土地および建物の概要

14 …… 新しい十文字、事務局

女性とともに歩み、新しい時代を創ります。

十文字学園では、
女性の自主自立の心に応えるために
教育、研究、社会貢献、生活、進路等のあらゆる面で
時代に合った望ましい環境づくりに努めています。

◉ 建学の精神、学園歌

［十文字学園の心を映す学園歌］

身をきたへ　心きたへて
世の中に　たちてかひある
人と生きなむ

創立者　十文字こと

十文字学園は、創立者である十文字ことが「教育を受けたいと思う女性がひとりでも多く学べる私立学校をつくりたい」という強い願いのもと、東京女子高等師範学校時代の友人と共に、1922（大正 11）年に東京巣鴨の地に設立されました。本学園の建学の精神は、学園歌「身をきたへ 心きたへて 世の中に たちてかひある 人と生きなむ」の中に込められています。「自分自身の生きがいをもち、自分の力で世の中の役に立てる女性を育てたい」と願う創立者の精神は、この学園歌とともに現在も脈々と受け継がれています。
今後も「自ら彊（つと）めて息（や）まず（自分を鍛えることをやめない）」の精神、生き方を守りつつ、社会の変化に柔軟に対応して、十文字にしかできない女子教育の実現を目指していきます。

◉ 沿革

1922（大正 11）年
文華高等女学校開校（設立者 十文字こと、戸野みちゑ、斯波安）
【東京都豊島区巣鴨】

1937（昭和 12）年
十文字高等女学校に校名改称

1951（昭和 26）年
学校法人十文字学園に組織変更

1966（昭和 41）年
十文字学園女子短期大学開学（家政科、幼児教育科）
【埼玉県新座市】

1968（昭和 43）年
十文字短大附属幼稚園開園
【埼玉県新座市】

1973（昭和 48）年
学科（初等教育学科、文学科国語国文専攻、
文学科英語英文専攻）開設

1974（昭和 49）年
家政学科を家政専攻と食物栄養専攻に分離

1976（昭和 51）年
専攻科
（国文、英文、家政、食物栄養、幼児教育、初等教育）開設

1989（平成元）年
学科（教養学科）開設

1991（平成 3）年
専攻科（教養）開設

1992（平成 4）年
家政学科家政専攻を家政学科生活学専攻に改称

1996（平成 8）年
十文字学園女子大学開学（社会情報学部社会情報学科）

2000（平成 12）年
十文字学園女子大学社会情報学部（コミュニケーション学科）開設
十文字学園女子大学留学生別科開設

2002（平成 14）年
十文字学園女子大学人間生活学部
（幼児教育学科、食物栄養学科）開設
十文字学園女子短期大学を十文字学園女子大学短期大学部に改称

2003（平成 15）年
十文字短大附属幼稚園を十文字女子大附属幼稚園に改称

2004（平成 16）年
人間生活学部（人間福祉学科、人間発達心理学科）開設

2007（平成 19）年
人間生活学部幼児教育学科を児童幼児教育学科に改称、
併せて 2 専攻（幼児教育専攻、児童教育専攻）開設

2010（平成 22）年
大学院（人間生活学研究科 食物栄養学専攻 修士課程）開設

2011（平成 23）年
新・人間生活学部（幼児教育学科、児童教育学科、
人間発達心理学科、食物栄養学科、人間福祉学科、
生活情報学科、メディアコミュニケーション学科）開設

2012（平成 24）年
短期大学部（表現文化学科）開設

2015（平成 27）年
人間生活学部（健康栄養学科、文芸文化学科 ）開設
人間生活学部人間福祉学科に社会福祉・保育コース開設

2016（平成 28）年
大学院（人間生活学研究科 食物栄養学専攻 博士後期課程）開設

2020（令和 2）年
人間生活学部（健康栄養学科、食物栄養学科、食品開発学科、
人間福祉学科）開設
教育人文学部（幼児教育学科、児童教育学科、心理学科、
文芸文化学科）開設
社会情報デザイン学部（社会情報デザイン学科）開設

◉ 歴代理事長

初代理事長
十文字 こと
1951（昭和26）年3月 ～ 1955（昭和30）年5月

第2代理事長
十文字 良子
1955（昭和30）年6月 ～ 1987（昭和62）年5月

第3代理事長
十文字 一夫
1987（昭和62）年5月 ～現在に至る

十文字 一夫

◉ 歴代学長

1966（昭和 41）年 4月
十文字学園女子短期大学　開学
（2002年より十文字学園女子大学短期大学部に改称）

十文字学園女子短期大学　初代学長
武田 一郎
1966（昭和41）年4月 ～ 1973（昭和48）年12月

短期大学　第2代学長
坂元 彦太郎
1974（昭和49）年3月 ～ 1991（平成3）年3月

短期大学　第3代学長
鈴木 一雄
1991（平成3）年4月 ～ 2002（平成14）年5月

1996（平成 8）年 4月
十文字学園女子大学　開学

十文字学園女子大学　初代学長
鈴木 一雄
1996（平成8）年4月 ～ 2002（平成14）年5月

大学　学長代行／短期大学部　学長代行
十文字 一夫
2002（平成14）年7月 ～ 2003（平成15）年2月

大学　第2代学長／短期大学部　第4代学長
鶴木 眞
2003（平成15）年3月 ～ 2007（平成19）年3月

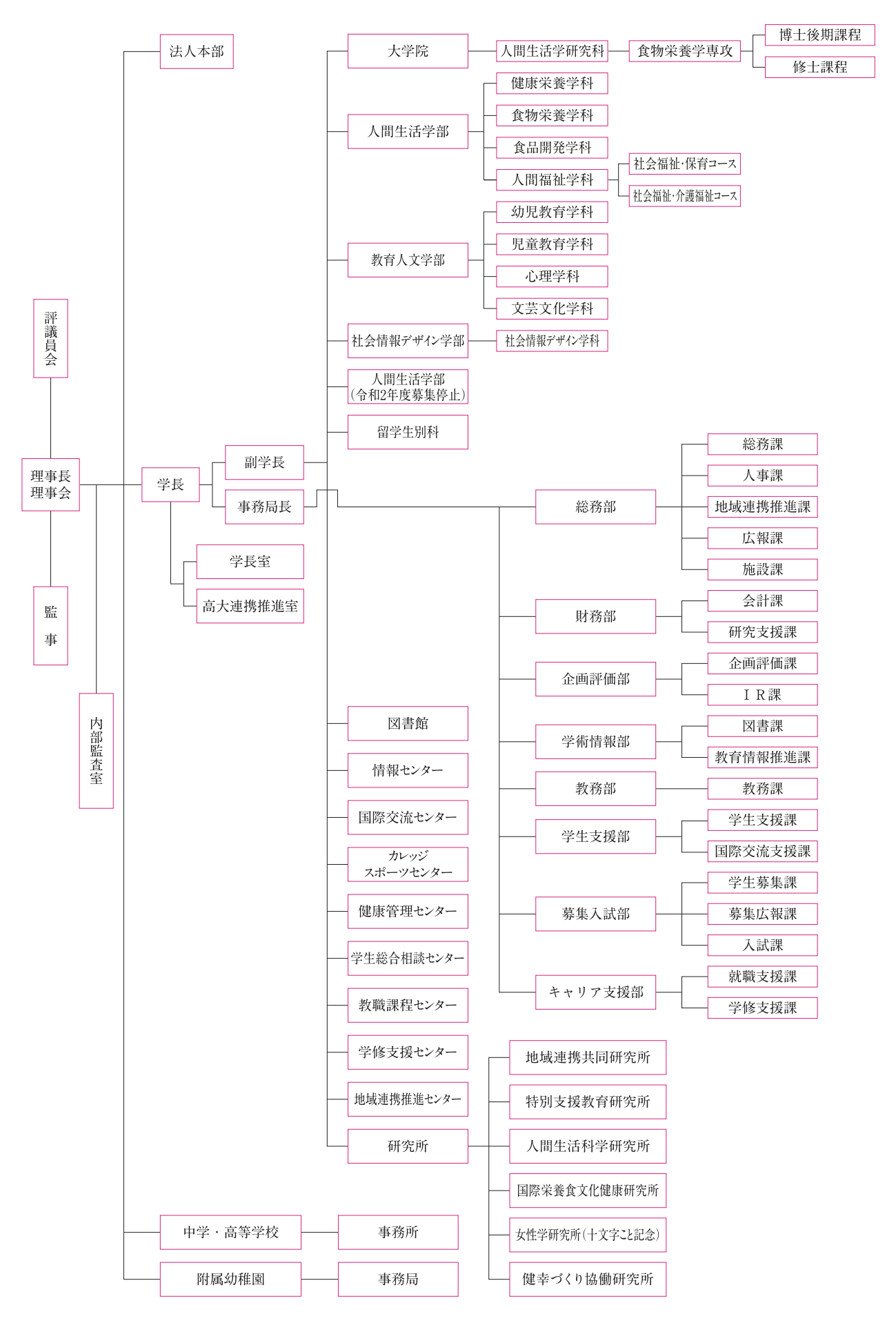
大学　第3代学長／短期大学部　第5代学長
宮丸 凱史
2007（平成19）年4月 ～ 2011（平成23）年3月

大学　第4代学長／短期大学部　第6代学長
横須賀 薫
2011（平成23）年4月～ 2017（平成29）年3月

大学　第5代学長／短期大学部　第7代学長
志村 二三夫
2017（平成29）年4月～ 現在に至る

志村 二三夫

組織図


評議員会
理事長
理事会
監事
内部監査室
法人本部
学長
副学長
事務局長
学長室
高大連携推進室
大学院
人間生活学研究科
食物栄養学専攻
博士後期課程
修士課程
人間生活学部
健康栄養学科
食物栄養学科
食品開発学科
人間福祉学科
社会福祉・保育コース
社会福祉・介護福祉コース
教育人文学部
幼児教育学科
児童教育学科
心理学科
文芸文化学科
社会情報デザイン学部
社会情報デザイン学科
人間生活学部
(令和2年度募集停止)
留学生別科
図書館
情報センター
国際交流センター
カレッジ
スポーツセンター
健康管理センター
学生総合相談センター
教職課程センター
学修支援センター
地域連携推進センター
研究所
地域連携共同研究所
特別支援教育研究所
人間生活科学研究所
国際栄養食文化健康研究所
女性学研究所(十文字こと記念)
健幸づくり協働研究所
総務部
総務課
人事課
地域連携推進課
広報課
施設課
財務部
会計課
研究支援課
企画評価部
企画評価課
ＩＲ課
学術情報部
図書課
教育情報推進課
教務部
教務課
学生支援部
学生支援課
国際交流支援課
募集入試部
学生募集課
募集広報課
入試課
キャリア支援部
就職支援課
学修支援課
中学・高等学校
事務所
附属幼稚園
事務局

人間生活学部

人間生活学部は、「食・栄養・運動・福祉」の観点から、乳幼児から高齢期までの健康の保持・増進を図り、全ての人々が幸福な生活を送る【健幸】を支援できる人材を養成します。

学科／入学定員		取得できる免許状・資格
健康栄養学科 120名	栄養士としての知識・技術をベースに「運動」や「食文化」の学びを深め、健康づくりのスペシャリストをめざします。	栄養士、中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）、栄養教諭二種免許状、健康運動指導士（認定試験受験資格）、高齢者体力つくり支援士（認定試験受験資格）、フードコーディネーター３級、社会福祉主事（任用資格）、学校図書館司書教諭、図書館司書、学校司書、日本語教員
食物栄養学科 120名	食と栄養の知識・技能を活かして人々の生涯にわたる健康の実現をサポートできる管理栄養士を育成します。	管理栄養士（国家試験受験資格）、栄養士、栄養教諭一種免許状、第一種衛生管理者、健康運動実践指導者（認定試験受験資格）、NR・サプリメントアドバイザー（認定試験受験資格）、専門フードスペシャリスト（食品開発・食品流通サービス）、フードスペシャリスト（認定試験受験資格）、社会福祉主事（任用資格）、図書館司書、学校司書、日本語教員
食品開発学科 40名	めざせ開発女子～食のトータルプロデューサーになる～ 「安全・安心」「機能性」「おいしさ」に優れた食品を開発し提供する、高度な能力を備えた人材を育成します。	食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）、専門フードスペシャリスト（食品開発／食品流通・サービス）、フードスペシャリスト、フードサイエンティスト、フードコーディネーター３級、食の６次産業化プロデューサー、図書館司書、学校司書、日本語教員
人間福祉学科 70名	**社会福祉・保育コース** 包括的な相談支援・社会的養護・子育て支援を担う、社会福祉士・保育士を育てます。	社会福祉士（国家試験受験資格）、保育士、社会福祉主事（任用資格）、児童指導員（任用資格）、身体障害者福祉司（任用資格）、知的障害者福祉司（任用資格）、図書館司書、学校司書、日本語教員
	社会福祉・介護福祉コース 人に寄り添い生活を支え、包括的な相談支援を担うことができる社会福祉士・介護福祉士を育てます。	社会福祉士（国家試験受験資格）、介護福祉士（国家試験受験資格）、社会福祉主事（任用資格）、児童指導員（任用資格）、身体障害者福祉司（任用資格）、知的障害者福祉司（任用資格）、図書館司書、学校司書、日本語教員

教育人文学部

教育人文学部は、教育学・心理学・文学の学びを通じて、思考と創造を重ねて成長・発達を続ける人間の理解と尊重を大切にし、他者と協働・共創しながら市民社会の形成に寄与する人材の養成を目指します。すなわち「自他の理解」「他者との共生」「文化の創造と市民社会への貢献」を基礎としながら、各領域の専門的知識や技能を習得していく教育活動を展開します。

学科／入学定員		取得できる免許状・資格
幼児教育学科 170名	「子どもから学ぶ、子どもとともに育つ」という基本姿勢をもった保育者を養成します。幼児教育の基本的理論と豊かな表現力、人間理解力と関係発展力、創造的保育実践力を備え、地域社会の中でさまざまな役割を担い人間の成長発達を支えながら、ともに未来を切り開こうとする人材の育成を目指します。	幼稚園教諭一種免許状、保育士、社会福祉主事（任用資格）、図書館司書、学校司書、日本語教員
児童教育学科 80名	特別支援教育、英語教育、幼・小連携など、現在の多様な教育課題に対応できるよう、知識の幅を広げ、教員・教育者として活躍するスキルを身に付けた人材を育成します。	小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病）、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）、学校図書館司書教諭、図書館司書、学校司書、日本語教員
心理学科 120名	生涯にわたって発達する「心」について学び、「社会で活かせる心理学」を修得します。さらに、カウンセリングの基礎力をはぐくみ、心理学的支援を要する人々に対し、専門知識を持って適切な支援のできる人材を育成します。	養護教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（保健）、高等学校教諭一種免許状（保健）、認定心理士、ピアヘルパー、メンタルヘルス・マネジメントⅢ種、社会福祉主事（任用資格）、児童指導員（任用資格）、図書館司書、学校司書、公認心理師受験資格要件（4年制大学において省令で定める科目の対応）、日本語教員
文芸文化学科 70名	文芸・芸術への深い洞察力と確かな日本語運用能力を身につけ、人として知的に成熟することのできる人を育成します。	中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許状（国語）、学校図書館司書教諭、学芸員、日本語教員、図書館司書、学校司書

社会情報デザイン学部

変化し複雑化する現代社会を紐解く知識と課題解決を目指す創造力、多様な他者と協働するコミュニケーション力をもって、よりよい社会を、文系、理系の枠を超えて育むことのできる人材を育成します。

学科／入学定員		取得できる免許状・資格
社会情報デザイン学科 130名	データサイエンスや社会学、経営マーケティングなど現代社会を読み解く力、デジタル技術を駆使する力、そして他者と協働し、新しい価値をデザインする力をもって、これからの社会で活躍し続ける人材を育成します。	上級情報処理士、ウェブデザイン実務士、ITパスポート、図書館司書、学校司書、MOS、日本語教員

大学院 人間生活学研究科 食物栄養学専攻

国内外で活躍できる「食と栄養と健康」の専門家を育成します。

課程／入学定員	
修士課程 5名	「食と栄養と健康」に関する高度な学識、研究技術や科学的視点・根拠に基づく実践活動力および旺盛な自己教育力を基盤とし、「食と栄養と健康」の専門家として国内外における新たな活躍の場を自ら切り拓く意欲と能力を有する人材を養成します。
博士後期課程 2名	「食と栄養と健康」に関する高度な学識、および自立して研究活動を行うことが出来る高度な研究能力を基盤とし、「食と栄養と健康」の専門家として国内外問わず社会の発展に貢献できる人材を養成します。

留学生別科

日本の大学へ留学を希望する海外の若者に対し、日本の大学の講義を理解できる日本語力の養成と日本文化を学ぶ機会を提供します。

入学定員	
80名	質の高い日本語教育と豊富な体験型プログラムを提供しており、これまでに中国各地、韓国、ベトナム、ミャンマー、ネパール等、各国から学生が学びに訪れています。

◉ 共通科目

共通科目では、「ゼミナール」、「総合」、「女性を生きる」、「社会に生きる」、「保健体育」、「情報処理」、「外国語（基礎科目）」、「外国語目的別科目」、「日本語（非母語者向）」、「キャリア教育」の 10 の科目区分からなっており、未来をデザインするための教養科目が充実しています。

Pick up

入門ゼミナール（1年次前期：ゼミ形式）

1年次前期の必修科目です。学修活動・新たに始まる大学生活への円滑な導入のための初年次教育を行います。

コミュニケーション演習（1年次前期又は後期：少人数形式）

月～金曜日までの毎日学ぶ英会話プログラムです。
ネイティブ教員の指導によるプレゼンテーションやディスカッションにより、無理なく英語のコミュニケーション能力向上を図ります。

総合科目

民間企業・団体・有志等の協力を得て、社会で実際に活躍する人々を招き開講する特別講座です。自ら学ぶ意欲と姿勢、思考力を育むとともに将来に向けての心構えや教養を身につけます。
〈協力企業等〉 おいしいもの研究所/三菱総合研究所/株式会社ロックビレッジ/東京都労働局　ほか

◉ 他学科開放科目

他学科開放科目は、共通科目にとどまらず、学修者である学生自身の関心・興味に応じて他学科の専門科目を学ぶことができる制度です。他学科の専門科目を履修した場合、卒業要件の自由選択科目としてカウントされます。幅広い知的好奇心に応えようとする制度です。

※一部履修科目については履修に制限があります。

◉ 担任制とアクティブラーニング

学生たちの自主性はサポートによって実現していくという考え方から、「担任制」を導入しています。担任は、学習面・学生生活全般のアドバイザーとしての役割を果たしています。
知識を実社会で生かせる実践的な力として定着させるため、授業にはアクティブラーニングを取り入れています。

◉ 海外研修プログラム

■ ノーザンライツカレッジ奨学金留学（約１年間）
ノーザンライツカレッジとの協定により、本学の学生1名または2名に対して、同校の授業料が免除となる制度。

■ 北京語言大学　交換留学（６ケ月・１年間）
北京語言大学との交換留学協定により、本学の学生2名に対して北京語言大学の授業料が免除になる制度。

■ 海外協定大学派遣留学奨学金（３ケ月以上１年）
提携大学へ派遣される学生1名に対して、本学が奨学金（90万円）を授与する制度。

■ 短期海外語学研修（英語・中国語　約１ケ月間）
長期休暇を利用した語学研修プログラム。また、課外活動を通じて、各国の生活習慣や文化を学ぶ。

■ ショートビジット・スタディーツアー（約１週間）
長期休暇を利用し、協定校とのプロジェクト企画・実施、フィールドワークを通じた PBL 型の異文化体験から学ぶ。

アメリカ・カナダ・イギリス・中国・タイの5カ国にある姉妹校、友好校および提携校

【アメリカ】	【カナダ】	【イギリス】	【中国】	【タイ】
University of Hawai'i at Mānoa（UH） ハワイ州 ホノルル市	Northern Lights College（NLC） ブリティッシュコロンビア州 フォートセントジョン市	University of Stirling（Stirling） スコットランド スターリング州 スターリング市	北京語言大学 北京市	Easten Asia University（EAU） パトウムターニ県 タンヤブリー郡
Utah Valley University（UVU） ユタ州 オレム市	Queen's University（QU） オンタリオ州 キングストン市	De Montfort University（DMU） イングランド レスタシャー州 レスター市	中華女子学院 北京市	
		University of East Anglia（UEA） イングランド ノーフォーク州 ノリッジ市	四川外国語大学 重慶市	

◉ 海外からの学生受け入れ

大学院、大学には、外国人留学生入試制度があります。〈国内・国外で実施〉
また、留学生の修学支援を目的に、学納金のうち、学部学生は年間授業料の30％、大学院修士課程および大学院博士課程は40％の額を限度として減免しています。（減免には条件および審査があります）

◉ 学生を支えるセンター

図書館

多領域にわたる学問分野の学修・教育・研究活動の支援を目的として、図書等資料を揃え、個人からグループまでの学修環境を提供しています。学生との協働による学生目線のサービスや活動も行い、社会に求められる知識や教養を提供し、学生の創造的・自立的学修活動をサポートしています。

情報センター

大学全体の情報システムを統括し、情報資源を管理・運用して、学修・教育・研究をサポートします。センターには、学内の無線LANに接続してネットワークを利用できる貸出用のノートパソコンのほか、デジタルカメラ、ビデオカメラ、プロジェクター等の様々なICT機器があり、貸出もおこなっています。個々・グループなど、利用者層に応じた学修環境を提供しています。

学修支援センター

「大学での学びに備えた入学前学習」、「在学中の基礎学力補充教育」、「教員・公務員採用試験や SPI 試験など就職に備えた試験対策」等、十文字生の学修を入学前から就職まで、側面から支援する役割のセンターです。講座受講、個別指導等、自分に合った方法で利用ができます。学修相談や質問にも対応します。

健康管理センター

医師である健康管理センター長と、保健師が学生や教職員の学内でのケガや体調不良に対応しています。また、健康診断後のフォロー、視力の再検査、健康教育も実施。内科、婦人科、精神科の校医 (外部医師) による健康相談はセンター内において予約制です。(各科月一回)
こころの悩みは校内においてカウンセラーによる相談が出来ます。予約は健康管理センターで受け付けます。

学生総合相談センター

何らかの困難や問題に直面した学生が最初に訪れる相談窓口です。相談員が相談内容をうかがい、サポートします。カウンセリングをはじめ、適切な相談窓口への紹介も行います。また、学生に対するハラスメントの相談窓口を兼ねています。学生の修学上または日常生活上の諸問題や障がいにかかわる相談に応じ、安心して学び、生活することができるよう支援します。

国際交流センター

大学の国際化を推進するため、海外協定校との学術交流や、学生の海外派遣、研修、受け入れ等を行っています。
本学に留学をしている学生の生活支援、進路相談、文化交流をサポートするとともに、海外の姉妹校・提携校で実施する語学や異文化理解研修の運営や、留学希望者に対する留学情報の収集・提供、留学相談などを行っています。

教職課程センター

全学の教職課程の企画・運営・推進に当たっています。教職課程履修者の支援、教育実習の連絡・調整、課程認定、教職課程自己点検評価の実施のほか、地域関係機関との連携を目的とし、包括協定を締結している自治体の現職教員研修などを所管しています。

カレッジスポーツセンター

地域スポーツの振興を目的として、学生・教職員・地域住民のみなさまに対し、健康・運動・スポーツを、安全に楽しく行える環境や機会を提案していくセンターを目指しています。
具体的には,学内スポーツの企画・運営・推進、強化指定クラブの育成・強化・発展等の大学スポーツへの支援、地域住民対象の健康イベント等を学生と協働して行うことで、多くのみなさまが健康・運動・スポーツに興味をもち、明るい将来へと歩みを進めることができるようなサポートを行っています。

ボランティアセンター（地域連携推進センター内）

学生がボランティア活動を通して、自主性や社会性を身につけ、社会に役立てるよう支援していきます。
ボランティアに関する情報発信と収集をして、相談に応じ、活動の機会につなぎます。また、学生や教職員がさらに活動を充実できるようにセンターを交流の場所としても活用し、講座や研修の機会も設け、ボランティア活動を促進する拠点とします。

修学支援制度 | 経済的負担を軽減し、大学生活を安心して送るための各種奨学金制度等があります。

学内奨学金

［十文字奨学金］

学業と人物が優れ、かつ、経済的な理由で修学が困難な学生に、奨学金の給付を行っています。基金は、教職員、関連団体及び外部からの寄付をその原資としています。
給付／1名につき20万円

授業料免除制度

［修学支援に係る授業料免除制度］

修学に熱意があるにもかかわらず経済的理由により修学が困難な学生の、1年次後期以降各学期の授業料の全額または半額（施設費・実験実習費・教育充実費等を除く）を免除する制度です。ただし、家庭急変の理由がある場合に限り、1年次前期も対象とします。　※外国人留学生は減免制度があるため対象外

［私費外国人留学生授業料減免制度］

正規の課程に在籍する私費外国人留学生について、学部学生は年間授業料の30%、大学院修士課程および大学院博士課程は40%の額を限度として減免する制度です。

特待生制度

［入学時学業特待生］

特待生選抜入試において、学業成績優秀者に対し入学金免除、入学金及び1年次前期分の授業料の全額または半額を免除する制度です。

［在学時学業特待生］

在学時に学業において極めて優秀、かつ品行方正な学生に対し、当該年度後期授業料から10万円（入学時学業特待生が該当する場合は20万円）を免除する制度です。

［十文字大元顕彰特待生制度］

大学並びに宮城県遠田郡涌谷町が定める条件を満たした者の中から1名について、4年間の学納金全額（入学時に納める諸費用を除く）を免除する制度です。

［十文字こと顕彰特待生制度］

大学並びに京都府船井郡京丹波町が定める条件を満たした者の中から1名について、4年間の学納金全額（入学時に納める諸費用を除く）を免除する制度です。

学外奨学金

日本学生支援機構奨学金　ほか

その他

［同窓会関係者への本学受験に関する優遇制度］

※制度を利用するには申請・審査等が必要です。

◉ 就職プログラム

1年次 → 2年次 → 3年次 → 4年次

就職活動準備期間 / 就職活動開始（エントリー開始）

キャリアデザイン入門
・各学科の進路の特徴に合わせた就業観を醸成するとともに、目的を持った学生生活を送る意識付けを行う

キャリア基礎力Ⅰ・キャリア基礎力Ⅱ
・就職筆記試験対策として、基礎力を培い、SPI3の正答率を高める

企業に学ぶキャリアデザイン
・埼玉県内の企業人が講師！
PBL型（課題解決型学習）の授業

プロアクティブ人材育成
・社会人へのインタビューを題材として学生がキャリアデザインを考え、学生間で共有することで職業観を養う

キャリアロールモデル研究
・社会人からの話を自分につなげ、自分自身のキャリアデザインを行う

キャリアサポート演習
・自ら進路を選択する能力、社会人基礎力を身につける

就職筆記試験対策【本試験レベルの模試・演習】
・eラーニングを取り入れ、言語・非言語の試験に慣れる

→ 会社説明会／エントリー／選考（筆記試験）／面接試験

ガイダンス・セミナーなど

<ガイダンス>
①就職活動への意識作り　②業界研究方法　③自己分析、履歴書の書き方
④秋以降の就職活動について　⑤内定者からの体験談　⑥学校求人の活用方法

<セミナーなど>
・就職筆記試験対策ガイダンス・金融ガイダンス・マナー講座（基礎・実践）
・業界セミナー・就職ゼミ・インターンシップ準備講座
・ナビ　PLUS（就職支援システム）の活用方法・面接練習会・学内合同企業説明会

インターンシップ（長期・短期）
・様々な企業・団体での就業体験を行い社会の実情を知り働くことに対する関心を高める
・インターンシップ報告会

自主社会活動
・自らの意志で参加したプロジェクト、社会的な活動に参加し、大学の授業以外の学びや気づきの機会を得る

自己成長ワークショップ(Hop!Step!!Camp!!!) ※1.2年次対象
・社会に出てから必要となる基礎力を低学年から身につける

就職支援課による集団面接
・就職希望者全員と面談

教員と就職支援課による個別指導

◉ 就職状況

■令和4年度就職率

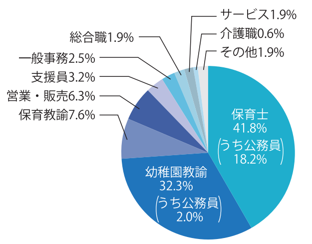
（令和5年5月1日現在）

学部		学科専攻	卒業者	就職希望者	就職率（就職者/就職希望者）就職者	%
大学	人間生活学部	幼児教育学科	167	158	158	100.0
		児童教育学科	92	88	88	100.0
		人間発達心理学科	146	131	127	96.9
		人間福祉学科	56	54	53	98.1
		健康栄養学科	84	82	82	100.0
		食物栄養学科	134	127	127	100.0
		文芸文化学科	91	78	76	97.4
		生活情報学科	114	99	95	96.0
		メディアコミュニケーション学科	83	70	67	95.7
		大学合計	967	887	873	98.4
大学院		人間生活学研究科　食物栄養学専攻（修士課程）	1	0	0	0
		人間生活学研究科　食物栄養学専攻（博士後期課程）	3	3	3	100.0
合計			971	890	876	98.4

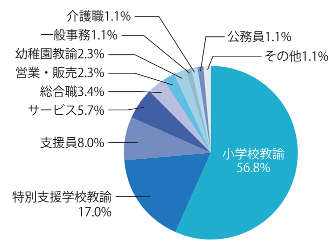
主な就職先

公・私立の幼稚園・保育園・小学校／IMSグループなどの医療機関／福祉事業所／㈱武蔵野銀行、東京信用金庫、日本生命保険など金融機関／㈱グルメデリカ、全農パールライス㈱、㈱マルハニチロリテールサービスなど食品企業／㈱日立社会情報サービス、三井情報㈱、富士ソフト㈱など情報通信企業／積水ハウス㈱／㈱巴コーポレーション／宝印刷㈱／倉敷紡績㈱／ニチコン㈱／㈱大塚商会／㈱ZOZO／㈱ヤオコー／㈱日教販／ルネサンス㈱／JAバンク埼玉県信連／みずほビジネスサービス㈱／㈱LEOCなど給食サービス企業／埼玉県など地方公共団体

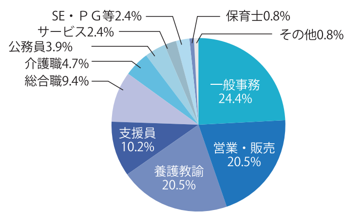
職種別就職状況　**人間生活学部**



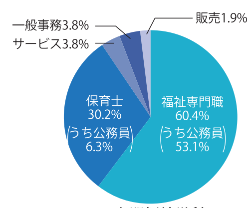
幼児教育学科



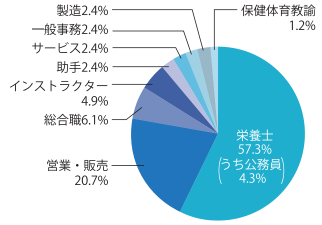
児童教育学科



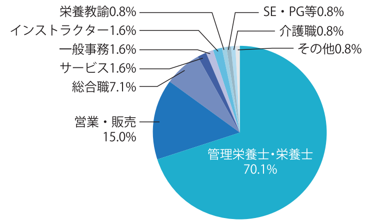
人間発達心理学科



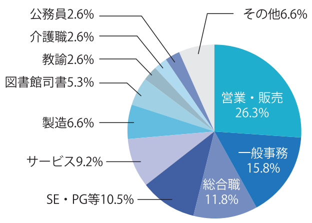
人間福祉学科



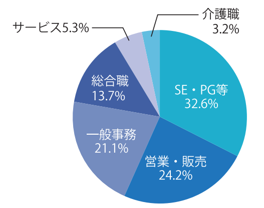
健康栄養学科



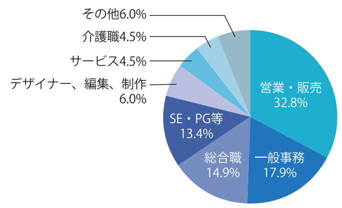
食物栄養学科



文芸文化学科



生活情報学科



メディアコミュニケーション学科

◉ 学生の現員

（令和5年5月12日現在）

			入学定員	1年	2年	3年	4年	学科計
大学	人間生活学部	健康栄養学科	120	81	103	124	117	425
		食物栄養学科	120	96	133	127	120 (1)	476 (1)
		食品開発学科	40	25	40	36 (1)	31	132 (1)
		人間福祉学科	70	56	70	74	80 (1)	280 (1)
	学部計		–	258	346	361 (1)	348 (2)	1,313 (3)
	教育人文学部	幼児教育学科	170	94	123	139	163 (1)	519 (1)
		児童教育学科	80	59	47	61	83	250
		心理学科	120	119	118	154	143 (1)	534 (1)
		文芸文化学科	70	54 (1)	66	81 (5)	91 (2)	292 (8)
	学部計		–	326 (1)	354	435 (5)	480 (4)	1,595 (10)
	社会情報デザイン学部	社会情報デザイン学科	130	50	57	96	167 (4)	370 (4)
	学部計		–	50	57	96	167 (4)	370 (4)
	人間生活学部（R2年度募集停止）	幼児教育学科	–	–	–	–	11	11
		児童教育学科	–	–	–	–	8	8
		人間発達心理学科	–	–	–	–	8	8
		人間福祉学科	–	–	–	–	4	4
		健康栄養学科	–	–	–	–	1	1
		食物栄養学科	–	–	–	–	4	4
		文芸文化学科	–	–	–	–	18	18
		生活情報学科	–	–	–	–	3	3
		メディアコミュニケーション学科	–	–	–	–	2	2
	学部計		–	–	–	–	59 ※1	59 ※1
大学院	人間生活学研究科	食物栄養学専攻（修士）	5	6 (4)	1	–	–	7 (4)
		食物栄養学専攻（博士）	2	1 (1)	2 (1)	5 (2)	–	8 (4)
	大学院計		–	7 (5)	3 (1)	5 (2)	–	15 (8)
総計（正規生）			–	641 (6)	760 (1)	897 (8)	1,054 (10)	3,352 (25)
留学生別科			80	4 (4)	–	–	–	4 (4)

※1　募集停止学科の過年度生のみ　※2（　　）は外国人留学生及び外国人学生で内数　※3　この他、科目等履修生、研究生の受け入れを行っている

◉ 外国人留学生数及び国籍

【外国人留学生受入状況の推移】

令和5年5月12日現在

	R3	R4	R5
学士	55	22	11
大学院（修士）	4	1	4
大学院（博士）	5	6	4
別科	7	6	4
科目等履修生・その他	0	0	1
合計	71	35	24

【国・地域別外国人留学生受入状況（R5年度生）】

令和5年5月12日現在

	国籍		学士	大学院	別科	科目等履修生・聴講生・研究生
私費留学生	アジア	中国	10	1	4	1
		ベトナム	–	7	–	–
		台湾	1	–	–	–
合計			11	8	4	1

◉ 卒業生数　39,209　名

（令和５年３月31日現在）※留学生別科（1,068名）除く

◉ 令和5年度入試 入学定員・志願者 受験者・合格者数

（令和5年5月1日現在）

	学部・学科	学科・専攻	入学定員	志願者	受験者	合格者
大学	人間生活学部	健康栄養学科	120	136	123	103
		食物栄養学科	120	209	189	140
		食品開発学科	40	64	61	55
		人間福祉学科（社会福祉・保育コース）	50	68	66	51
		人間福祉学科（社会福祉・介護福祉コース）	20	36	35	28
	合計		350	513	474	377
	教育人文学部	幼児教育学科	170	168	160	146
		児童教育学科	80	137	133	123
		心理学科	120	281	250	206
		文芸文化学科	70	135	128	109
	合計		440	721	671	584
	社会情報デザイン学部	社会情報デザイン学科	130	156	148	130
総計			920	1,390	1,293	1,091

※3年次編入生を含まず

大学院	人間生活学研究科	食物栄養学専攻（修士）	5	4	4	4
		食物栄養学専攻（博士）	2	0	0	0

※秋入試含む

◉ 令和5年度入試 都道府県別 志願者・合格者・入学者数

※高校所在都道府県

（令和5年5月1日現在）

都道府県	志願者	合格者	入学者
北海道	11	6	5
青森	3	2	1
岩手			
宮城	4	4	4
秋田	1	1	1
山形	4	3	
福島	7	7	4
茨城	37	25	18
栃木	42	28	16
群馬	21	12	4
埼玉	817	664	399

都道府県	志願者	合格者	入学者
千葉	70	55	29
東京	314	244	130
神奈川	4	3	1
新潟	16	9	6
石川			
福井			
山梨	8	6	3
長野	10	7	4
静岡			
大阪			
兵庫			

都道府県	志願者	合格者	入学者
奈良			
島根			
岡山			
広島			
香川			
高知			
熊本	2	1	1
鹿児島	3	2	1
沖縄	12	9	4
高卒認定他	4	3	3
総計	1,390	1,091	634

◉入学者における埼玉県所在高校出身者の割合　62.9%　※埼玉県内に所在する高校の卒業生

研 究 ｜ 十文字の英知を、社会や人へ還元します。

本学では、学長のリーダーシップの下、建学の精神に則る研究活動活性化のための施策を計画的に推進することにより、新たな知を創造する学術・文化の拠点として、本学の使命と地域的役割を認識し広く社会に貢献するため、研究活動活性化のための基本方針を次のように定めました。

研究活動活性化のための基本方針

- 本学の理念と使命の実現に向け、研究活動をより活性化するため、研究支援体制の整備や研究体制の充実に取り組んでいます。
- 研究活性化のために必要な規程の整備、研究活動における不正行為防止のための研修や冊子の作成、プロジェクト研究費の審査・予算配分方法の見直しなどに取り組んでいます。
- 地域の皆さまに貢献出来る研究にも一層尽力して参ります。

◉ 科研費採択件数一覧

（令和5年7月1日現在）

研究種目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基盤研究（B）	0	0	1	0 (1)
基盤研究（C）	6 (18)	3 (18)	4 (20)	2 (20)
若手研究	3 (9)	2 (11)	1 (11)	2 (10)
研究成果公開促進費	0	0	0	1
（件数）	9 (27)	5 (29)	6 (32)	5 (32)

※研究代表者が本学教員のもの。数字は新規採択分。ただし（　）内は継続・延長課題を含む。

◉ 奨学寄附金・共同研究・受託研究

（単位:千円）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
奨学寄附金	件数	4 (3)	8 (7)	8 (6)	2 (1)	0 (0)
	受入額	2,540	38,522	54,341	900	0
共同研究	件数	3	0	2	5	1
	受入額	1,000	0	0	2,600	0
受託研究	件数	2	3	1	4	2
	受入額	1,100	2,000	500	5,350	1,100
合計件数	件数	9	11	11	11	3
	受入額	4,640	40,522	54,841	8,850	1,100

※令和5年度については7月1日現在の数字。
※奨学寄附金の（　）内の数字に関しては公募型研究助成金獲得数

研 究 所 ｜ 社会のニーズに多様な研究で応えます。

自主的共同研究の柔軟な形態での推進を支援し、本学の教育・研究の一層の推進を図ることを目的として設置しています。

【地域連携共同研究所】

本研究所は、自治体、企業、NPO等との連携を通して、地域の活性化および課題解決等につながる活動を支援し、地域社会の発展に寄与することを目的としています。さらに、SDGsへの取り組みを強化し、活動を展開しています。

【特別支援教育研究所】

本研究所は、特別支援教育の研究や推進を図るとともに、その取組みの一環として、学内の障がい学生への学修等の支援をはじめ、連携市の幼稚園・小中学校、特別支援学校等への教育相談活動を通じ、本学及び地域社会の発展に寄与することを目的としています。

【人間生活科学研究所】

本研究所は、人間生活科学の各領域の諸問題の学術研究を通じ、本学および地域社会の発展に寄与することを目的としています。
<2019年からのプロジェクト>
・人間生活に関与し人間の成長を支えていく「対人専門職」の養成教育の在り方についての検討
・本学幼児教育学科卒業生で現在家庭で子育て中の保育経験者が行う地域子育て支援事業「プラスママの子育てサロン」の附属幼稚園との連携開催

【国際栄養食文化健康研究所】

本研究所は、栄養学を基盤とする食・健康関連分野の国際的な学術研究を通じ、本学および地域社会の発展に寄与することを目的としています。
・食・栄養・健康部門　　・アジアの栄養・食文化部門

【女性学研究所（十文字こと記念）】

本研究所は、建学の精神に基づき、ジェンダーに関わる諸課題について学際的な研究を通じ、本学および地域社会の発展に寄与することを目的としています。

【健幸づくり協働研究所】

本研究所は、支援者や自治体組織、住民と協働で「健幸」を推進するための方策を考え効果を科学的に検証していくことを目的としています。

地 域 連 携 ｜ 地域に根ざし、地域とともに歩む、開かれた大学

地域に根ざす大学として、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、地域の課題解決等へ向けて積極的に取り組んでいます。
近隣自治体との連携協力協定の締結をはじめ、大学の有する知的資源や学生の力を地域社会の発展に活かすため、埼玉県や地元自治体、商工会、企業、団体、NPO 等と連携し、産官民学による事業活動を展開しています。

◉ 地域連携事業の推進

本学は、2014年度に文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」の採択を受けて以来、本学と包括連携協定を締結している自治体（新座市、朝霞市、志木市、和光市、清瀬市）と連携して地域を志向した教育・研究・社会貢献の取り組みを展開し、継続・深化しています。

【自治体との連携】

持続的な地域連携を進めるため、以下の周辺自治体と包括連携協定を締結して、活動基盤を強固にしています。

・新座市　2007 年 12月21日締結
・和光市　2009 年 10月13日締結
・朝霞市　2013 年　6月28日締結
・志木市　2013 年　8月　1日締結
・清瀬市　2015 年　4月　7日締結

【ふるさと支援隊】

高齢化や過疎化が進行する埼玉県内の中山間地域に活力をもたらす支援を行うための県の取り組みで、教員と学生が地域の課題解決に向けた活動を住民と協働して行っています。

【地域との連携事業】

子育て支援や健康長寿、食育、スポーツ振興、地域イベントの活性化、地域力の向上など、様々な分野で地域連携活動を展開しています。

緑地・歴史的文化資産の保全
地域の方たちとの剪定作業

地産地消
地場野菜を使ったドレッシングの商品開発

健康づくり
新座市健康まつりへの参加

食　育
食物栄養学科による児童への食育教室

スポーツ振興
西武ライオンズと連携した親子野球教室

地域イベントの活性化
プラスちゃんくらぶのイベントへの参加

◉ 大学間連携

【埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）】

TJUPは、埼玉県内の東武東上線・西武線の沿線の20大学がそれぞれの特色と強みを生かして自治体、企業と連携し、地域社会の発展に貢献するために設立された地域連携プラットフォームです。
3つの視点（多様な高等教育の提供、生活しやすい地域づくり、地域産業の活性化）により4つの委員会（教育連携委員会、地域交流委員会、学生イベント交流委員会、キャリア支援委員会）を設置し、様々な連携活動を推進しています。
【会員校】跡見学園女子大学、埼玉女子短期大学、十文字学園女子大学、城西大学、城西短期大学、女子栄養大学、駿河台大学、西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、東京電機大学、東邦音楽大学、日本医療科学大学、日本工業大学、文京学院大学、武蔵丘短期大学、明海大学、山村学園短期大学、立正大学、埼玉県立大学（オブザーバー）

◉ 公開講座等

本学の知的資源や教育・研究成果等を地域社会に還元するため、公開講座やリカレント教育など「生涯学習の場」を提供しています。

【公開講座】

本学独自の公開講座のほか、埼玉県の協賛（埼玉まなびィプロジェクト協賛事業）や新座市との共催（新座市内大学公開講座）による講座も実施して、広く地域住民に開講しています。

2023年度公開講座・イベント一覧
※新座市内大学公開講座

7月	土井善晴のおいしいものセミナー lesson4『あたり前の食事　ほっこり感』
8月	これからの保育を考える　子ども主体の保育とは
	子ども大学にいざ
9月	TJUP公開講座「武蔵国の19校を通じて埼玉を知る2023」～埼玉のスゴ偉人『宮崎アニメの自然観』－『となりのトトロ』『もののけ姫』を中心に－
10月	子どもの夢と元気を育む地域の居場所づくり(※)
11月	脚本・エンタメ・純文学 and more.　作家に聞く!創る愉しみ&ちょっと言えない裏話(※)
1～2月	子ども大学しき

学園創立100周年記念イベント
佐々木則夫副学長によるサッカー教室
（2022年度開催）

【リカレント教育】

埼玉県内在住の55歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとなるように、県との協働事業として、授業科目の一部を開放しています。受講生は、学生と一緒に授業を受けています。

財務状況 | 今後も健全な経営と、より安定した学園運営を目指します。

学校法人十文字学園の財政状況は令和４年度決算をもとに見ると、以下の通り資金収支合計は13,817百万円、事業活動収入の合計は7,103百万円、事業活動支出の合計は6,725百万円となりました。

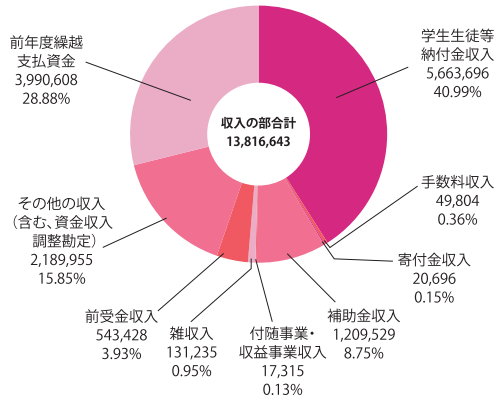
令和4年度は大学において7号館空調熱源機更新、教室・研究室等のＬＥＤ化、3・4号棟1階トイレの改修等の教育環境整備のほか、実験・実習用機器備品の購入整備を実施しました。環境・安全管理面では大学3・4号棟の外壁改良保全工事を実施しました。

今後も健全な財務体質を維持しながら、本学に在籍する全ての学生のみなさまに、より一層充実したキャンパスライフを過ごして貰うための環境整備を鋭意進めてまいります。

◉ 資金収支計算書

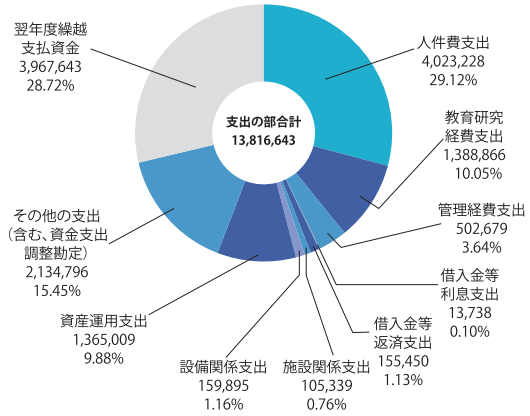
単位（金額）：千円
割合について、小数点以下第３位を四捨五入して 0.00 となる以下の科目は記載を省略
●受取利息・配当金収入 377千円

収入の部

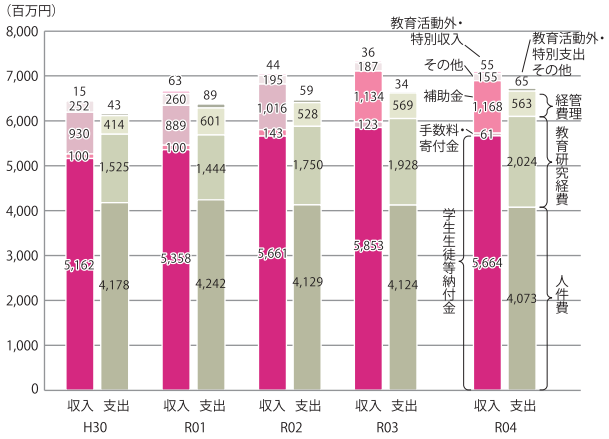


支出の部

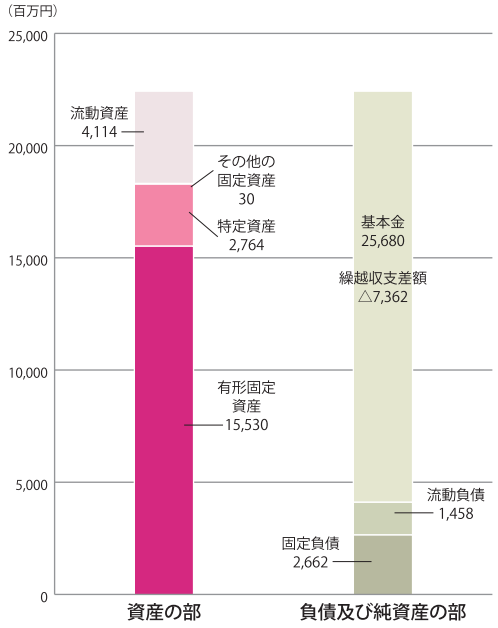
単位（金額）：千円



◉ 収入・支出の推移（事業活動収支）



◉ 貸借対照表



◉ 主要財務分析比率

比率名	算式	R4年度
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入計	5.3%
人件費比率	人件費 / 経常収入※1	57.8%
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入※1	28.7%
管理経費比率	管理経費 / 経常収入※1	8.0%
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 / 教育活動収入計	5.4%

※1 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

勘定科目	内容
有形固定資産	土地、建物、構築物、機器備品、図書、車両など
流動資産	現預金、未収入金、短期貸付金、有価証券など
その他の固定資産	借地権、電話加入権、施設利用権、有価証券（長期）、長期貸付金など
特定資産	退職給与引当特定資産、施設設備引当特定資産、100周年記念事業引当特定資産など
固定負債	長期借入金、退職給与引当金など
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金など
基本金	学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして事業活動収入のうちから組み入れた金額

教職員データ

◉ 教職員

（令和5年5月1日現在）

			大学	大学院	計
教員	専任	学長	1	−	1
		副学長	4	−	4
		教授	※1　71	1	72
		准教授	34	−	34
		講師	27	−	27
		助教	5	−	5
		助手	8	−	8
	合計		150	1	151
	兼務者		226	−	226
職員	専任		71	−	71

※1　学長と副学長は教授に含まず

役職者一覧

■教員役職者　（令和5年5月1日現在）

役職名	氏名	兼務
学長	志村　二三夫	人間生活学研究科長 研究所長
副学長（企画担当）	綿井　雅康	学長補佐 副学長（就職担当） 学長室副室長
副学長（研究担当）	星野　敦子	地域連携推進センター長 地域連携共同研究所長
副学長（教育担当）	安達　一寿	図書館長
副学長（募集入試担当）	今井　伸	
副学長補佐（就職担当）	潮谷　恵美	
副学長（特命担当）	佐々木　則夫	
研究科食物栄養学専攻主任	中村　禎子	
人間生活学部長	吉田　亨	人間福祉学科長
教育人文学部長	山田　陽子	幼児教育学科長
社会情報デザイン学部長	杉元　葉子	社会情報デザイン学科長
健康栄養学科長	木村　靖子	
食物栄養学科長	岩本　珠美	
食品開発学科長	小林　三智子	
児童教育学科長	冨山　哲也	
心理学科長	池田　まさみ	女性学研究所長（十文字と記念）
文芸文化学科長	小林　実	
留学生別科長	松永　修一	国際交流センター長
図書館副館長	石川　敬史	
情報センター長	北原　俊一	
カレッジスポーツセンター長	飯田　路佳	
健康管理センター長	齋藤　麗子	
学生総合相談センター長	中西　郁	特別支援教育研究所長
教職課程センター長	羽田　邦弘	
地域連携推進副センター長（ボランティアセンター担当）	佐藤　陽	
地域連携推進副センター長	星野　祐子	
健康づくり協働研究所長	加藤　則子	
人間生活科学研究所長	上垣内　伸子	
国際栄養食文化健康研究所長	山本　茂	

■事務系役職者　（令和5年5月1日現在）

役職名	氏名	兼務
理事長補佐	井上　明	法人参与、学長室室長、企画評価部長
事務局長	本間　修	法人本部長補佐
事務局長補佐（募集入試戦略担当）	安達　満	法人本部長特別補佐
総務部長	柳澤　貞夫	高大連携推進室室長、施設課長
総務部付部長（人事担当）	佐藤　吉朗	人事課長
総務課長	岩附　友美	
総務課長（100周年プロジェクト担当）	岡本　美紀	
地域連携推進課長	野口　志都代	
広報課長	原　一彰	
企画評価部次長	樫本　圭司	IR課長
企画評価課長	瀬川　美智子	
学術情報部長	戸塚　勝美	図書課長、教育情報推進課長
財務部長	高野　明	研究支援課長
会計課長	椎名　忍	
研究支援課担当課長	松本　正敏	
教務部長	保岡　義明	
教務課長	細田　文子	
教務課長	稲垣　友子	
学生支援部長	高田　佳織	国際交流支援課長
学生支援部長（学生総合相談センター担当）	笠木　貴和子	
学生支援課長	大熊　やすこ	
国際交流支援課担当課長	小林　晶識	
募集入試部長	鈴木　俊太郎	
学生募集課長	和井田　慎吾	
募集広報課長	三野　裕子	
入試課長	大町　勇	
キャリア支援部長	松苗　広幸	学修支援課長
キャリア支援部付部長（就職支援担当）	町田　安幸	
就職支援課長	油井　志穂	
学修支援センター長	辻　庸光	

施設・設備 | 学修環境を整備・主体的な学びをサポート

◉図書館・情報センター・コンピュータ演習室・演習教室

教室番号	用途	面積（㎡）	座席数	PC台数 デスクトップ	PC台数 ノート	PC台数 タブレット
113	コンピュータ演習室	167	90	−	90	−
123	コンピュータ演習室	167	90	−	90	−
742	アクティブラーニング教室	141	60	−	31	54
753	アクティブラーニング教室	67	40	−	42	−
8204	アクティブラーニング教室	126	42	−	42	−
8205	コンピュータ演習室	130	50	50	−	−
8206	コンピュータ演習室	120	54	54	−	−
8311	演習教室	46	15	15	−	−
8312	演習教室	46	15	15	−	−
8313	演習教室	46	15	15	−	−
8412	演習教室	39	15	15	−	−
8413	演習教室	41	15	15	−	−
9304	演習教室（Mac）	46	15	15	−	−
9401	演習教室	46	15	−	8	−
9201	アクティブラーニング教室	91	60	−	60	−
9202	コンピュータ演習室	91	48	−	48	−
9203	コンピュータ演習室	91	48	−	48	−
9206	コンピュータ演習室	91	48	−	48	−
教室合計		1,546	−	194	499	54
図書館		1,719	266	−	20	−
情報センター		236	125	−	100	−
図書館・情報センター合計		1,955	391	−	120	−
教室・図書館・情報センター合計		3,501	−	194	619	54

◉開館・開室時間、年間開館・開室日数、年間利用者件数

（令和5年3月31日現在）

	開館・開室時間 平日	開館・開室時間 土曜日	年間開館・開室日数	年間利用者件数※1
図書館	8:50〜20:00	8:50〜17:00	285	34,833
情報センター	8:50〜19:30	8:50〜16:30	285	91,719

※1 延べ数

◉蔵書数等

	国内書・雑誌	外国書・雑誌	合計
蔵書数	155,313	20,150	175,463
所蔵雑誌種類	500	206	706
受入図書冊数	2,075	38	2,113
受入雑誌種類	133	19	152
視聴覚資料所蔵数			4,649
受入視聴覚資料数			67

（千円）

	図書費	図書・新聞雑誌費	合計
資料費	5,832,506	18,191,635	24,024,141

	利用状況
館外貸出冊数	9,305
館外貸出人数	4,933
文献複写依頼数	353

建物配置図

◉十文字学園女子大学
校地面積：85,225 ㎡
校舎面積：35,243 ㎡

◉十文字女子大附属幼稚園
校地面積：3,708 ㎡
校舎面積：1,417 ㎡

◉Pick Up

食品開発学科 選択科目「カフェ実習」

① 本科目のねらい

食品開発学科の3年次に開講される「カフェ実習」は、「食のビジネス」領域の選択科目です。2年次までに修得した「食のおいしさ」「食の開発」「食の安全・安心と機能性」「食のビジネス」に関する知識や技術を活かして、学内のカフェ店舗において、カフェの運営を体験します。学生が考案したメニューを学生自身で提供することで、食品開発の実践力を身につけます。

② 実施状況

「カフェ実習」は2022年度から新規に開講した科目です。学生達はカフェ運営で使用するキッチンカーやエプロン、ロゴのデザインの考案から携わりました。キッチンカーでのカフェの運営は、学生8名程度のグループで行います。販売時期やターゲット等を考慮してメニュー開発を行い、製造工程計画、衛生管理計画や販売促進計画を立て、製造、販売まで実施します。カフェ実習を通して、食品販売の一連の流れを体験し、食品開発の知識や技術を深めていきます。

③ 受講生の反応（学生の声）

- 商品を考えるだけでなく、キッチンカーの営業準備や営業時の役割など自分たちで考えて実際に商品を販売し、お客様から意見をもらうというとても貴重な経験をすることができて良かった。
- 実際に、一からメニュー考案をし、試作などを繰り返して出来上がった商品を販売する中で、製造の大変さや販売の難しさを学ぶことが出来た。
- 商品の企画から販売までを自分たちで行うことができ、良い経験になった。
- 自分たちで考案し製造した商品がおいしいと好評をいただけて嬉しかった。
- 企画、製造、販売を講義だけでなく実際に体験することで難しさがわかり、より理解できたと感じた。
- 今までの知識を活かして取り組む事が出来た。メニュー考案や販売に関する事だけでなく、衛生管理の大切さもより学ぶことが出来た。
- 衛生管理やラベルの作成など、今までに学んだ知識を活用する場面が多く、経験できてよかった。

▲かわいい色合いのキッチンカー

▲実習風景

▲販売されているスイーツ

事務局

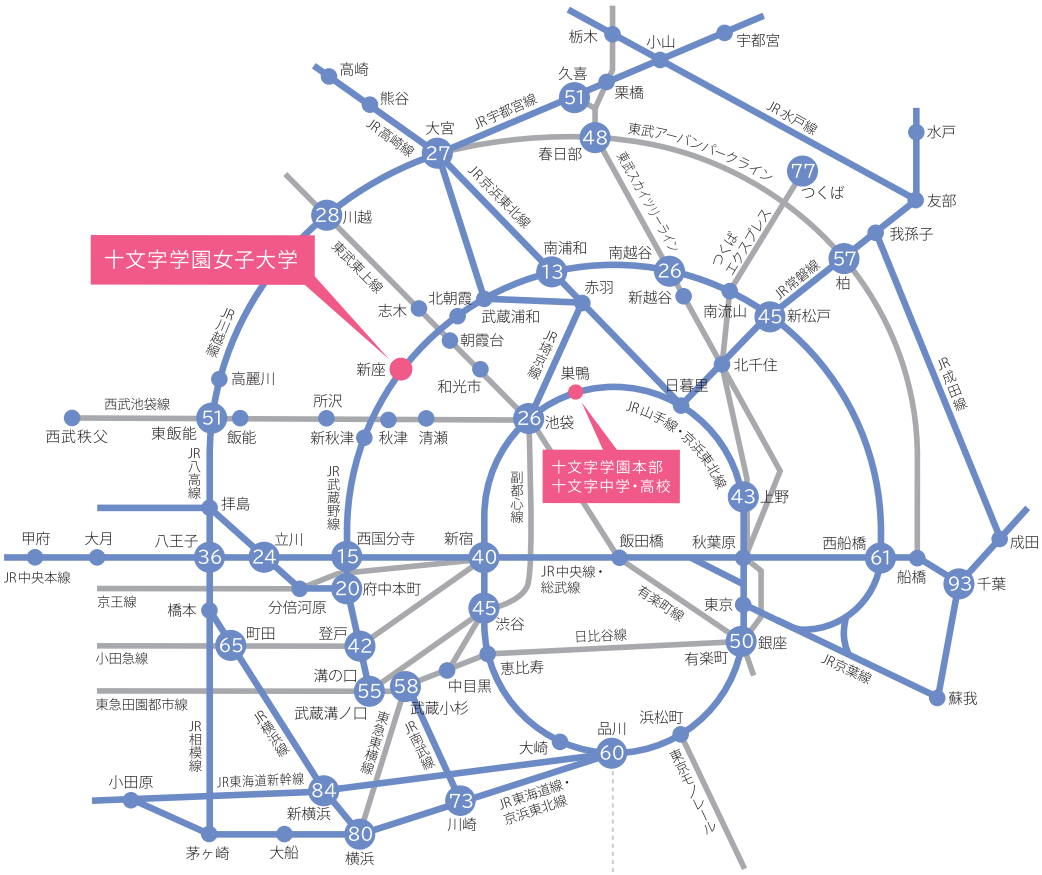
◉ お問い合わせ先

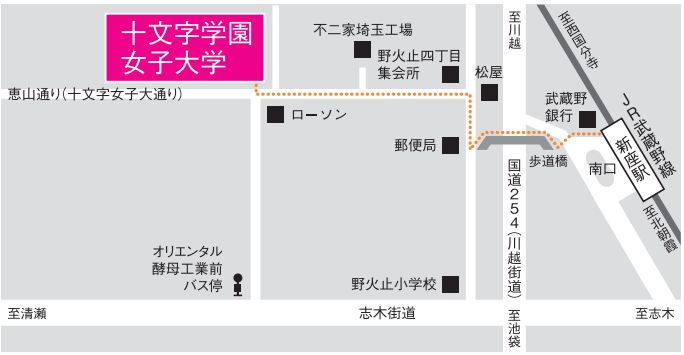
部	課	所在	主な取扱事務内容	電話番号	FAX 番号	メールアドレス
総務部	総務課	8号館1階	事務総括、秘書、教授会、運営会議、文書管理、規程制定、入学式・学位記授与式等諸行事、校友連携〔武蔵野会（保護者会）、若桐会（同窓会）〕	048-477-0555（代）	048-478-9367	shomu@jumonji-u.ac.jp
	総務課（100周年担当）		100周年記念事業に関すること	048-423-3749（直）		100th@jumonji-u.ac.jp
	人事課		人事、給与、諸手当、退職金、就業規則、勤務時間、アルバイト雇用、福利厚生、社会保険、ハラスメント対策室	048-477-0555（代）		jinji@jumonji-u.ac.jp
	地域連携推進課		地域との連携事業、公開講座、自治体・学外機関との連携、大学間連携、高大連携に関すること	048-477-0958（直）	048-477-0764	ext@jumonji-u.ac.jp chiiki@jumonji-u.ac.jp
		1号棟（B）1階	ボランティアに関すること	048-477-0557（内833）		v-center@jumonji-u.ac.jp
	広報課	8号館1階	大学広報業務、ホームページの管理	048-477-0555（代）	048-478-9367	kohoka@jumonji-u.ac.jp
	施設課		施設活用計画、施設貸出、防災・防火、学内整備、工事・施設改修・施設保守等の管理	048-477-0555（代）		shisetsu@jumonji-u.ac.jp
財務部	会計課		諸経費支払、旅費・立替金等支払、物品検収、授業料等収納	048-423-0271（直）		kaikei@jumonji-u.ac.jp
	研究支援課		研究支援、科研費、研究助成金、受託研究、共同研究費、研究所、プロジェクト研究費、特別研修員、紀要、学術図書出版助成費、研究費の発注・検収業務	048-477-0555(代)		k-kenkyu@jumonji-u.ac.jp
企画評価部	企画評価課		大学の将来計画、教育改革、教育情報公開、大学評価	048-477-0569（直）		kikaku@jumonji-u.ac.jp
	IR 課		IR 企画立案、学生の学修時間・教育成果、その他の教育運営に関する調査・分析、大学の諸活動に関連する情報収集・分析、学長室に関すること			ir@jumonji-u.ac.jp
学術情報部	図書課	図書館	図書館運営、図書等図書館資料の閲覧貸出返却 図書等図書館資料の購入、図書館システム管理・運用	048-477-0563（直）	048-479-6147	tosho@jumonji-u.ac.jp
	教育情報推進課	8号館1階 情報センター	教育研究・事務システムの企画・立案、調整およびネットワークの運用・管理のほか情報セキュリティ対策やユーザ教育	048-489-1281（直）	048-478-9367	jouhou@jumonji-u.ac.jp
教務部	教務課	7号館2階	履修関係全般、時間割、学籍、教室予約、試験、成績、証明書発行、資格・免許状（教育職員免許を除く）	048-477-0929（直）	048-489-1273	kyoumu@jumonji-u.ac.jp
			教職課程、教育職員免許取得、教育実習、介護等体験、教職課程センター	048-477-0579（直）		kyosyoku@jumonji-u.ac.jp
学生支援部	学生支援課		学生生活全般、授業料免除、奨学金、課外活動、健康管理センター、学生総合相談センター、カレッジスポーツセンター	048-260-7735（直）		gakusei@jumonji-u.ac.jp
	国際交流支援課	9号館1階	外国人留学生の修学、生活支援、留学生別科、国際交流センター、海外研修プログラム、国際交流協定	048-477-0603（直）	048-477-9123	iec@jumonji-u.ac.jp
募集入試部	学生募集課	1号棟（A）1階	学生募集、オープンキャンパス、受験生相談	0120-8164-10 048-477-0924（直）	048-477-0389	boshuu@jumonji-u.ac.jp
	募集広報課		募集広報、募集関連ホームページ管理			
	入試課	1号棟（A）2階	入試事務、新入生学納金免除、同窓生検定料割引、合否判定委員会、特待生規程	048-423-0583（直）		nyushi@jumonji-u.ac.jp
キャリア支援部	就職支援課	7号館2階	就職指導、就職相談、求人先開拓、就職情報収集と提供、インターンシップ、キャリア教育支援	048-489-1271（直）	048-489-1273	career@jumonji-u.ac.jp
	学修支援課	7号館4階	学修支援センター（学力補充のための支援、教員採用試験・公務員試験対策のための学修支援）	048-260-7732（直）	048-260-7732	ssc@jumonji-u.ac.jp

ACCESS

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE since 2004
III UNIVERSITY
2021.4–2028.3

本学は令和3年度(公財)日本高等教育評価機構による認証評価の結果、適合と認定されました。





- JR武蔵野線「新座駅」南口下車、徒歩8分
- 東急東横線・東京メトロ副都心線・有楽町線直通 東武東上線「朝霞台駅」下車、JR武蔵野線「北朝霞駅」より「新座駅」下車、徒歩8分
- 西武池袋線「秋津駅」下車、JR武蔵野線「新秋津駅」より「新座駅」下車、徒歩8分

FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています www.fsc.org FSC® C104388

十文字学園女子大学

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL：048-477-0555（代表）／FAX：048-478-9367
https://www.jumonji-u.ac.jp

十文字中学校・十文字高等学校

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
TEL：03-3918-0511（代表）／FAX：03-3576-8428
https://js.jumonji-u.ac.jp

十文字女子大附属幼稚園

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL：048-477-3521（代表）
https://youchien.jumonji-u.ac.jp